

2022年度事業報告

NPO法人 CIL ひこうせん
理事長 杉浦 英俊
電話番号 048-555-1100

1. 事業の成果

2022年度は、安全対策を最優先の課題とし、講習や日々の点検などの具体的な対策を講じてきました。その結果、事故無く1年を過ごすことができました。

新型コロナウイルスに対しては、感染予防、感染対策を行ってまいりましたが、オミクロン株の猛威にあい、7月、11月、3月と3回のクラスター発生という事態になってしまいました。幸いにも、感染者、濃厚接触者、非感染者を分離して業務にあたり、危機を乗り越えることが出来ました。ご不便にも拘わらず、指示にしたがって下さった当事者の方々、献身的に業務に携わっていただいた職員、ヘルパーの皆様に深く感謝申し上げます。そうした中で、コロナ感染からは快復したものの、体力の衰えや肺炎の併発により、入院加療中で面会もできないまま、元理事の大塚則幸様が亡くなってしまわれ、みんなで見送るという、新型コロナウイルスの恐ろしさに見舞われた一年となってしまいました。

一方、長年の課題であった、こころ耐震対策が、国庫補助金交付決定を受け、新築工事を行うことが出来、3月25日に完成いたしました。これにより、ひこうせんの全ての事業が、耐震基準をクリアーし、建物の安全・安心が確保されました。

各事業の成果は次のとおりです。

① 自立生活支援事業

自立を目指す当事者に対し、的確に対応し、地域で自立生活を送る障害者を支援しました。自立生活について理解を深め、意欲を高められるように「ILP」（ミニILPを含む）や「虐待防止研修」「HOP」を実施してきました。

自立相談室「キムヒロ」は今年度も引き続き、相談者及び家族の自立や一般就労等の希望を実現できるように支援し、「こころ」の利用者から1名、一般事業所に就労することになりました。また、相談者本人の希望が実現できるように意思決定支援の方法等についても検討を関係者で行い、相談員の人材育成にも取り組みました。

「文学・歴史・美術・現代社会・人の品格等の知識や教養を高める」障害を問わず誰でもが学べるサロン「ILP with Salon ミネルヴァ」(月に1回の予定)をコロナ感染状況を踏まえながら実施してきました。自立支援研究所を本部内に設置し、國學院大学の柴田先生にご指導いただきました。

② 介助派遣及び移送サービス

新型コロナウイルス感染対策を最優先としながら、確実に障害者の自立生活を支援してきました。アシスタントのスムーズな派遣、アシスタントの技術や対応の改善・指導の実施、現場の課題の把握、問題の解決、アシスタント不足の解消に努めました。同行援護研修を実施し、視覚障がい者への派遣を増やすことができました。

③ 障害者・高齢者及び児童の権利擁護活動

今年度も新型コロナウイルス感染対策の3密を回避する形での虐待防止研修を動画視聴の形で実施し、虐待防止に取り組みました。行田市の「障がい者差別解消条例」策定に委員を派遣、パブリックコメントの提案を行いました。家庭内で発生した虐待事例等に対し、ひこうせんとして緊急避難も含め、可能な限りの支援を行いました。

④ 福祉、教育、まちづくりへの啓発・提言事業

福祉の店「きゃんばす」の運営など市内障害者団体と協議して、福祉施策の促進を図りました。ふれあいまつり、スポーツレクリエーションなどの催しは、コロナ禍で、実施されませんでした。まちづくりでは、行田市公益活動推進委員会に引き続き参加し、積極的に街づくりに提言を行いました。行田市美術展に、アートメンバーの作品を出品し、広く市民にアピールすることができました。

⑤ 障害者児福祉サービス事業

就労継続支援B型、生活介護、自立訓練とサービスの種別による取り組みの違いを利用者のニーズに合わせ、実施してきました。入浴サービス

や機能訓練・生活訓練など必要なプログラムの確立、自前の厨房による昼食の提供を実施しました。

多機能型事業所「グランディール」では、散歩やドライブなどを実施し、利用者の特性に合わせて、楽しい日中活動としての取り組みを実施してきました。「ビギン」では、限られた期間になりますが、各自に合わせて自立に向けた訓練を実施してきました。

生活介護「アンフィニ」では、利用者の作業をパソコン作業に特化し、生活のクオリティを高めることができました。ショートステイ「ルポ」では、利用者が徐々に増え、利用される方の特性に応じた受け入れ体制の確立に努めました。

「こころ」は事業継続しながら耐震のための建て替えが行われたので、活動が制限されましたが、建築の工程が身近で見られ、完成を迎えることが出来、メンバー・職員ともにモチベーションアップにつながりました。メンバーの工賃アップや訓練として、アート作品やクラフト製品の制作、カフェの経営、内職の受注、リサイクル事業などを実施しました。3か所の日中活動の拠点の総力を挙げて、就労継続支援A型事業所の設立に向けて収益性を重視する事業の開発を目指しましたが、実現には至りませんでした。

「amp かわいいサミット」は八木橋百貨店様の多大なるご協力をおもちまして、新型コロナウイルス感染対策を実施しながら、販売と展示のみに限定しての開催でしたが、コロナ禍で販売の機会がない中で開催できたことで、出店事業所からも喜ばれたり、売上もコロナ以前と比べても大差ない売上を上げることが出来たなど、大きな成果をあげることができました。

共同生活援助・絆では多様な入居者の要望にできるだけ対応しながら、安全・安心に生活が続けられるよう取り組みました。各ホーム責任者会議を月1回開催し、ホームで生起する諸問題の解決を図ってきました。医療的なケアの緊迫度が高まった入居者2名がケアの整った他施設へ移転され、1名はショートステイの利用に切り替えられ、1名が他のホームに移られ、4名の方が新しくご入居されました。サテライトの利用者は3年の利用期限を迎えましたが、無事、一般のアパートに転居することが出来、ヘルパーをご利用されながら自立生活を送られることになり、共同生活援助・絆としての役割を果たすことが出来ました。

⑥ 児童福祉法に規定する児童発達支援事業および放課後等デイサービス事業

放課後等デイサービス事業「ぴーす」は、日中活動の「自立訓練」とも連携しながら自立にむけた個別支援計画を作成し、療育を行ってきました。1名の利用者が、1月より、絆のホームに入居され、ご家庭、学校、ホーム、放課後等デイサービスの4者の連携の下、生活されることになり、「ぴーす」での療育が大きな役割を果たしました。

放課後等デイサービス事業「きらきら」は、「ぴーす」と統合したため休業としていましたが、こころの新築工事に伴い、一時的にこころの業務で使用する必要があり、一旦、廃止することとしました。必要に応じて、再開したいと思います。

⑦ 広報活動としてひこうせん通信を年12回発行し、ホームページやフェイスブック、ブログ、**youtube**などを使った広報活動を実施しました。多人数が集まるイベントは、感染症対策のため実施出来ませんでした。